

# CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

発行日：毎月 10 日・20 日・月末  
創刊日：1999 年 12 月 8 日  
編集 / 発行：橋本 啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

2006 年インタビューレポート

編集: [editor@cnar.jp](mailto:editor@cnar.jp) 広告: [pr@cnar.jp](mailto:pr@cnar.jp) 読者登録: <http://cnar.jp>

Copyright 2006 CNA Report Japan. All rights reserved.

## インタビューレポート

### Compunetix, Inc. ( コンピュネティクス )



Compunetix アジアパシフィック  
事業開発担当ディレクタ ドン・コーディック氏(右奥)  
Compunetix アジアパシフィック  
事業開発担当マネージャ ソニア・スー氏(中央)  
Compunetix 日本オフィス 代表  
株式会社ジェイ・ティ・エス  
代表取締役社長 小嶋 知二氏(左)

コンピュネティクス社は、多地点接続装置専門の米メーカー。政府、企業、通信事業者向けの各種小型から大型までのシステムを開発世界各国へ提供している。

会社としては 1990 年に設立。当初は米連政府向けの会議システムを提供し、1992 年以降企業及び通信事業者向けのシステムを開発、以来世界 25 カ国に 30 万ポート以上の多地点会議システムを販売してきた。

世界各国に事業拠点がある。その中で、アジア太平洋地域では、香港、オーストラリア、そして最近設立された日本、インドなどがある。社員数は、230 名強。

今年米調査会社フロスト&サリバンの事業開発戦略リーダーシップ賞(Business Development Strategy Leadership)を受賞。また、品質保証に関する国際規格である ISO

9001:2000 認証を本社と製造拠点で取得。

本社は、米ペンシルベニア州ピッツバーグ郊外 Monroeville。

今年株式会社ジェイ・ティ・エス代表取締役社長 小嶋知二氏が、コンピュネティクス・ジャパン日本代表に就任した。

橋本：アジア太平洋地域の音声会議市場についてどのように見られていますか。

コーディック氏：市場における価格圧力は世界的な傾向ですが、アジア太平洋地域は全体的に見て、きわめて顕著に成長している期待の市場と見ています。

アジア太平洋地域は、大きく分けて2つのグループに分けて見えています。まずは、オーストラリア、ニュージーランド、香港、シンガポールなどの国々です。これらの国々は、アジア太平洋地域の音声会議市場を見た場合全体の2/3の大きさを持っています。市場としては規模が大きいのので、ある意味で音声会議については先進的で成熟した市場と言えますが、成長率はそれほど大きくはありません。

それに対して、日本、中国、インドは、当社から見て極めて重要で戦略的な意味を持った市場です。といいますのも、これら3国は、オーストラリア、ニュージーランド、香港、シンガポールなどと比較して需要が顕著に顕在化しており、確かな成長がうかがえると実感しているからです。

現在は絶対数的には、日本、中国、インドの市場規模は相対的にみて小さいのですが、例えば、日本経済が世界第二位の規模を誇り、中国やインドが、年率8-9%の急速な経済成長を達成している新興の経済圏である、という事実を見ますと、これらの国々の経済活動やビジネスにおいて、音声会議が生産性を高めるツールとして果たす今後の役割は大きなものがあると期待しています。

橋本：音声会議は長年一般電話回線で使われてきましたが、昨今のインターネットやブロードバンドの広がりから、テレビ会議ではIP化は急速に進んでいます。音声会議も一般電話回線からVoIPへの移行は見られますか？

コーディック氏：音声会議はVoIPへ移行していくだろうという議論はあります。その時期は推測の域を出ませんが、方向としては間違いありません。

音声会議を見た場合、音声会議サービス事業者を利用する方法と社内ネットワークに音声会議多地点接続装置などを導入する2通りの方法が一般的ですが、まずどちらが先にVoIPへ移行するかという議論で行けば、社内ネットワークへVoIP音声会議を導入する方法が先でしょう。

音声会議サービス事業者のVoIP導入のペースは、企業での導入ペースを追いかけるという形ではないかと見ています。それは、企業社内ネットワークのIP化が急速に進んでいるという背景があるからです。

音声会議サービス事業者でもVoIPへの動きはあります。アジア太平洋地域のある音声会議サービス事業者は、2007年よりオールIPの音声会議サービスを提供すべく現在準備していると伺っています。

いずれにしても、音声会議がオールIPになる時期は、5年後か、10年後か、それとも20年後かと推測するのは難しいですが、やはりインターネットの広がりを考えると、その方向性は、自然な流れではないでしょうか。その流れに抗せず当社の製品群は、IPのサポートを強力に進めています。一般電話回線への要望も需要として当面は顕在しつづけるでしょうから、その点も従来と同様しっかりサポートしていく考えです。

橋本：今後音声会議の市場拡大の可能性は高いということで、御社としてはどのような製品群あるいはソリューションを市場に提供しているのでしょうか。

コーディック氏：当社は、音声会議、ビデオ会議、ウェブ会議用の多地点接続装置システムを、企業と通信事業者

提供しています。

米連邦政府向けのシステムとしては、当社は多数実績がありますが、その一つ内にユニークな例として、NASA(米航空宇宙局)に導入した当社のシステムがあります。NASAでは、スペースシャトルの打ち上げ時、司令センターからさまざまな指示や命令が出されますが、そういった場面で、当社のシステムが、スタッフのコミュニケーション用システムとして活用されています。

極めて重要度の高いコミュニケーションが行われるところでは高信頼性がシステムに求められますが、NASAの例は、そういった高信頼性を要求される環境でも当社のシステムが安定稼働している実績の一例です。

連邦政府などの実績を通して培われたシステムの高信頼性が企業や通信事業者向けのシステムへも生かされています。

橋本：それではもう少し詳しく御社の製品について教えてください。



コーディック氏：我々のフラッグシップの製品は、「Contex Summit(サミット)写真左」多地点音声会議システムです。このシステム

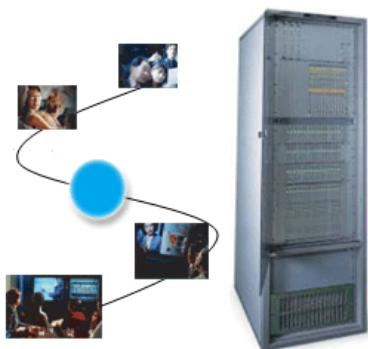
は、192ポートから最大9600ポートまで拡張可能で、大規模会議にも対応可能なシステムです。



企業向けのシステムでは、「audioVirtuoso(オーディオバーチュオーソ)写真左」を提供しています。日本での導入実績が大手企業

で多数あります。このシステムは、24ポートから120ポートまでの小型多地点音声会議システムです。

そして、通信事業者向けとしては、「Orchestrator(オーケストレーター)写真下」があります。このシステムは、音声、ビデオ、データを統合するシステムの信頼性の高い多地点会議システムです。Orchestratorは、ISDNとIPビデオ会議、そして一般回線用の音声会議機能をマルチにサポートしたシステムで、通信事業者向けに開発しています。ちなみに、日本のある大手通信事業者では、このOrchestratorが導入されています。



**橋本：**社内ネットワークへの多地点接続装置システムを統合する場合の方法について簡単に教えてください。

**コーディック氏：**統合方法としてはいくつかありますが、簡単に言えば、ひとつは、多地点接続装置を、PRI (NTTのINS1500相当) 経由で企業の社内PBXに接続する方法、あるいは、VoIPの社内環境であれば、IP-PBXに対してイーサネット経由で接続する方法があるかと思います。そういった形で社内の通信ネットワークに統合して活用されているユーザが多いです。

**橋本：**他社メーカーと比較して御社のシステムはどういった優位性がありますか。

**コーディック氏：**当社は、通信事業者だけではなく企業からの、信頼性、安定性、そして拡張性などのビジネスニーズに対応した多地点接続装置システムを提供することを主眼

として専門的に開発しているのが大きな特長です。

基本的には四点ほど挙げられます。

まず第一点目は、当社のシステムは、長年の連邦政府機関などでの導入稼働実績に裏付けられた高い信頼性が挙げられます。NASAや国防省などでの実績がその象徴的な例になると思います。

第二点目は、当社のシステムが提供する音声品質は、業界でも認知された高品質な音声品質を提供しているということです。ビジネスコミュニケーションでもっとも重要な点は音声品質です。連邦政府での導入実績から当社の音声品質の良さはご理解いただけると確信しています。

第三点目は、当社のシステムは、専用線、一般電話回線、IPネットワークなどのさまざまな通信回線インターフェイスに標準で対応していることです。つまり、外部のゲートウェイ装置などを使わずに標準で多様な回線をサポートしており、これは安定した音声品質を提供する上で重要です。

他社が提供する多地点接続装置システムは、IPのみ対応したもの、あるいは、ゲートウェイ装置を間に入れて一般電話回線にインターフェイスをとるシステムが多いのですが、多様な回線に標準で対応している多地点接続装置システムを開発しているのは、当社以外ではあまり聞いたことがありません。当社はそういった点で他社に対して強みを持っていると思っています。

第四点目は、ビジネスで必要な多地点会議機能を包括的にサポートしているということです。オンデマンド会議(事前に予約機能を使わずに会議を即時に開催設定すること)、オペレータ操作会議(オペレータが会議予約設定などを行う)、イベント会議、ウェブ会議など、用途に応じてシステムを柔軟に運用できます。

**橋本：**御社では保守サービスでライフタイムサポートと呼ばれる特長的なサービスを提供しているのでしょうか。

**コーディック氏：**当社の保守サービスは、ライフタイムサ

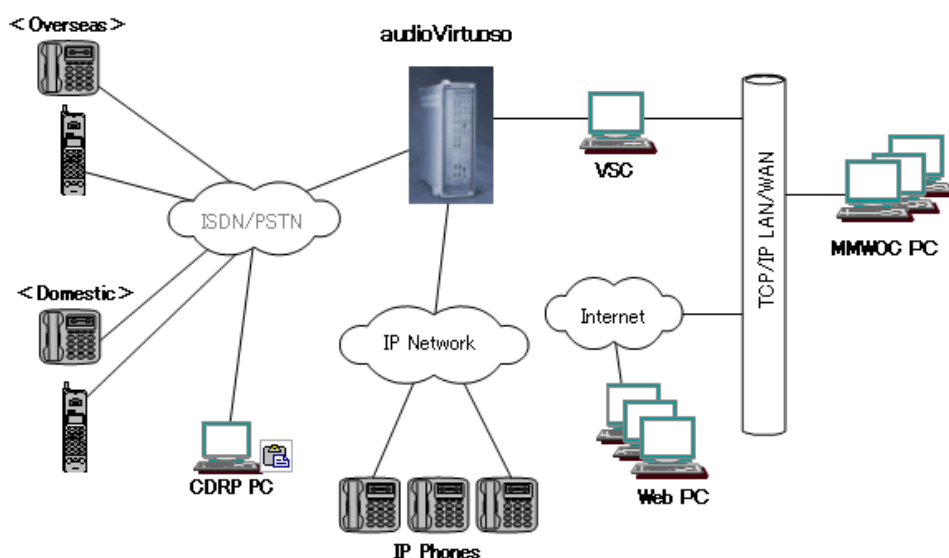
ポートが特長となっています。つまり、導入後のメンテナンスや部品対応などについてのことですが、当社のシステムを、1社でも使用続けるお客様がいる限り、当社ではメンテナンスや部品対応を提供し続けるということです。

一般的には、サポートは5年まで、とか、システムが生産終了すると通常は何年か後には、部品対応も終了してしまうことが多いのですが、当社のライフタイムサポートは、お客様がそのシステムを使って頂く限り対応するというサービスです。そういったサービスを提供している他社メーカーはあまりないのではないかと思います。

**橋本：**日本ではこういった企業ユーザで御社のシステムを利用していますか？

**コーディック氏：**当社のシステムは、世界各国の大手通信事業者や通信サービス提供事業者から、先ほどの国防省やNASAなどの連邦政府機関、そしてメーカーや投資会社などの企業へも多数実績があります。

日本では、大手電気メーカー、投資会社、証券会社、教育サービス提供会社、通信サービス事業者など、社名は公表できませんが、当社のシステムを導入していただいている企業が増えてきています。



#### システム構成例

日本では大型のContex Summitや、120ポートまで対応し

た小型のaudioVirtuosoなどの導入が多いです。用途としては、社内ミーティングや非常事態の連絡網システムとして、教育サービスでは遠隔教育として、通信サービス事業者では多地点接続サービスのプラットフォームとして、当社のシステムがあらゆる用途で活用されています。

**橋本：**音声会議多地点接続装置を導入するにあたって考慮すべき注意点はどんなところにありますか。

**コーディック氏：**お客様がシステムを導入するにあたっては、音声品質、システムの信頼性、操作性、そして、投資保護などの観点から検討すべきです。

**橋本：**具体的には。

**コーディック氏：**音声品質が悪いと会話は成り立ちません。数百あるいは数千名規模が参加する多地点の音声会議であっても、当社のシステムは、ビジネスで必要とされる最高品質の音声を提供します。数百、数千規模の音声会議を高品質な音声で実現するのは、技術的に難しいのですが、当社は、20年来の音声会議システムの経験と、高品質な音声を実現する特許技術（All-talker-mixing-algorithmなど）も所有しており、当社が開発する上でのバックボーンとなっております。

次にシステムの信頼性は運用上不可欠です。例えば、通信サービス事業者が多地点会議サービスを提供するには、多地点会議サービスを提供するシステムが24時間連続稼働することがほとんどです。システム自体がそういった連続稼働に耐える安定性と信頼性を持つというのは前提条件です。そういった意味では、当社のシステムは、

NASA や米国防省などでの稼働実績からもっとも信頼性が高いシステムと評価されていますので、導入ユーザのニーズに十分お応えできると確信しております。

さらに、操作性の面ですが、電話会議参加者が、電話会議機能を簡単に操作できるということは、それを電話機で操作するにしても、ウェブインターフェイスで行うにしても、システムとしては必要不可欠な要素です。

たとえば多地点接続サービスを行う事業者において、そのサービスのベースとなる多地点接続装置を運営管理する際に、負荷なくまた柔軟にシステムをオペレーションできなければサービス提供に支障が出る可能性があります。その点当社の Compunetix WOC(ウィンドウズ・オペレータ・コンソール)は、世界の通信サービス事業者の中では、もっとも高い評価を得ています。

橋本：投資保護についてご説明いただけますか。

コーディック氏：導入したシステムを将来にわたっても陳腐化させないということは導入したお客様の重大な関心事です。

当社のシステムにはその陳腐化させないための、つまり、将来にわたって長く継続して使い続けていただくためのノウハウが詰め込まれています。

技術に投資することはリスクを伴います。そのためリスクの最小化を当社は大変重要と考えています。そういった考えからシステムに採用する技術については、将来の技術展望を見越した検討と開発が重要と考えています。

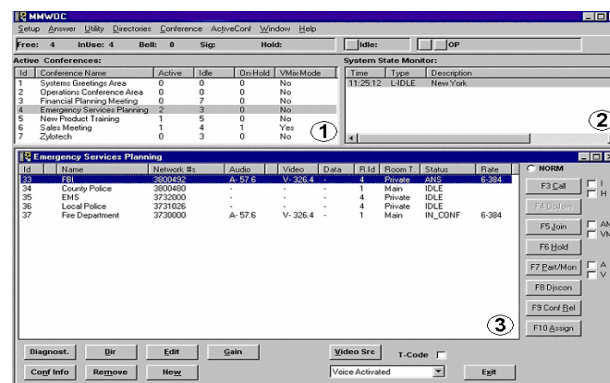
橋本：より具体的にご説明いただけますか。

第一点目は、当社のシステムは、ワンプラットフォームのシステムに、従来の専用線、一般電話回線だけではなく、将来主流となる VoIP も標準で対応しています。

第二点目は、電話会議を行う上で、オペレータが操作制御する方法、電話会議参加者が各自でアドホックに会議を開始する方法などがありますが、当社のシステムは、電話会

議を行う上での必要な機能を全て提供しています。他社を見ますと、アドホックな会議開催機能しかサポートしていない場合が多いのですが、その点当社のシステムは実用性が高いと思っています。

第三点目は、当社は、専用の多地点接続装置メーカーとして、市場を長年リードしてきました。その実績から当社では、販売するシステムについては、全てライフタイムサポートを提供しています。その製品のライフタイム(導入のお客様が使用続ける限りという意味)の間しっかりとした保守サポートを提供させていただくということです。それは、システムのメンテナンス、修理、部品交換などが含まれます。



### オペレーションインターフェイス MMWOC



### ビルディングインターフェイス (システム利用費用管理)

橋本：今の時点で、読者の皆様にお知らせできるロードマップはありますか。

コーディック氏：社内ではロードマップについてはいろいろな可能性から検討が加えられており、今後製品開発

として実現していくであろう、“興味深い”開発アイテムは沢山あります。

それらのいくつかをご紹介しますと、まずは、インスタントメッセージングを使った会議セッションの予約や開始です。これはインスタントメッセージングのインターフェイスを使ってテキストチャットでコマンドなどを入力して会議の予約などを行う仕組みですが、現在開発はほぼ済みであり市場テストを行っている段階です。

もうひとつは検討段階ですが、音声会議多地点でのブロードバンドハイファイ音声やステレオ音声などの開発です。また、アプリケーションの観点からは、インスタントメッセージングと統合した、モバイル通信端末からプレゼンスを使った会議開催、あるいは、コンシューマー向けのチャット形式の会議などの機能の提供を考えています。

**橋本：**それでは最後にコンピュネティクス日本代表の小嶋様に今後の日本での抱負をお聞かせください。

**小嶋氏：**コンピュネティクス・ジャパン日本代表の株式会社ジェイ・ティ・エスの小嶋です。ジェイ・ティ・エスは、通信機器・半導体製品等の輸入販売、技術サポート、保守サービス、外資系企業へのコンサルティングサービスを提供しておりますが、今年からコンピュネティクスの日本代表として日本のお客様の対応をさせて頂くことになりました。コンピュネティクスの製品については、システムの設置からサポートまで対応させていただきます。何卒よろしくお願い致します。

**橋本：**有り難うございました。

**Compunetix 日本オフィス連絡先：**

株式会社ジェイ・ティ・エス内

〒236-0022 神奈川県横浜市金沢区町屋町 3-15

金沢建設会館 3 階-A

**Tel: 045-781-4716**

**Fax: 045-781-4718**

ホームページ(日本語): <http://www.compunetix.jp>

E-mail [info@compunetix.jp](mailto:info@compunetix.jp)

株式会社ジェイ・ティ・エス <http://www.j-ts.com/>